

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

②施設・事業所情報

名称：しらかば逗子乳児保育園	種別：地域型保育事業(小規模保育A型)	
代表者氏名：大塚 慶子	定員（利用人数）： 19名	
所在地：〒249-0003 逗子市池子2-3-42		
TEL：046-854-9570	ホームページ： https://www.shirakabakids.com/zushi/	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：2017年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人誠心会		
職員数	常勤職員： 7名 非常勤職員5名、アルバイト1名	
専門職員 （専門職の名称）	保育士 10名 栄養士（兼務） 1名	
	調理員 2名	
施設・設備の概要	（保育室数） 3部屋 （設備等） 調乳室、沐浴室、トイレ、調理室	

③理念・基本方針

基本理念：みんないっしょの教育・保育・福祉

基本指針：・子どもの育つ力を支援する。

・優しさと思いやりの心を育む。

・子ども、保護者、保育者の三者一体で育て、慈しむ気持ちを育む。

・給食は手作りで、美味しく感謝の気持ちで食す。

④施設・事業所の特徴的な取組

00～2歳児を対象とした小規模の園で、0歳児には、這い這いをしながらでも遊べる玩具を用意している。1～2歳児は、年齢にそくした、保育室のコーナーを使っ
てのままごと、積み木、プラレールなど、自分が遊びたいと思うところで主体的に
遊べるようにしている。子どもの「やりたい気持ち」を大切にして、環境作りを行
っている。外遊びでは、園庭の砂遊びや滑り台などで、思い思いの遊びができるよ
うにしている。天気の良い日は近くの公園に行き、元気に走り回ったりして、静と
動を取り入れた遊びができるよう、計画を立てている。また、年齢が上になると、
友だちの存在が気になるようになり、玩具の取り合いが起こることがある。保育士
は両方の子どもの話を聞き、順番に遊ぶよう介入し、ケンカになったときは「ごめ
んね」が言えるよう働きかけている。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2023年5月31日（契約日） ～ 2024年2月20日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（2019年度）

⑥総評

- ◇事業所の特色や努力、工夫していること、事業所が課題と考えていること等
- 〇〇～2歳の乳児を対象とした保育所として、開設して7年目を迎えている。隣接市に認定こども園（以下、本園）があり、本園と連携して、「みんないっしょ」の保育を実践している。
- 〇日当たりの良い園舎で、保育室すべてが明るい環境にある。夏はエアコンや扇風機を使い、常に換気を行っている。冬場になると乾燥が強くなるため、加湿器だけでなく濡れタオルや菌から守るプロテクターなどを使用し、子どもも保育士も水分摂取に気を付けている。這い這いをする子どもがいるため、保育室の床は常に清潔を保ち、小さなごみが落ちていないよう気を付けている。子どもの椅子やテーブルは、月齢にあったものを使用し、食器なども発達に応じたものを使っている。
- 〇子どもの情緒の安定を図り、スキンシップを多く取りながら、愛着関係を作り上げている。性格が違い、やりたいことが違い、発達の状況も違う子ども一人ひとりをしっかり見て、保育を行っている。特に自分に目を向けてほしいという心を理解し、しっかりと向き合って保育にあたっている。皆が座っているときに、そわそわしている子どもには、「今何がしたいの?」と声掛けしながら、何をしようとしていたのかを理解するようにしている。
- 〇〇歳児の登園時には、保護者と離れる不安を考え、しっかりとスキンシップを取りながら受け入れている。また、保護者の不安も解消できるよう、声掛けに気を配って、受け入れを行っている。保育室にござのマットを敷き、安心して寝転んで、這い這いができる環境を作っている。家庭と同じような食事、同じミルクや乳首を使用するなど、子どもが安心できるよう工夫している。
- 〇1～2歳児は、運動機能も発達し、身体を使った遊びが活発になる。走っていて転んだり、高いところから飛び降りたりすることもあるが、いろいろな体験ができるよう、安全に注意しながら保育している。また、言葉遣いや挨拶など、保育士が見本になって関わるようにしている。自分でやろうとする気持ちが芽生え、友だちの真似をしながら、自分でできることが増えている。
- 〇子どもたちは、保育士やみんなと一緒に食事を摂り、食べることの楽しさを感じながら食事をしている。食べ終わると、保育士にお代わりをもらい、ほとんどの子どもが何度もお代わりをしている。野菜が多い食事も、子どもたちはすすんで摂取して、食べ終わってから、お代わりをしている。月齢に合った食器を用意し、子どもたちは「僕のはくまちゃん」など、自分の食器を見て楽しんでいる。
- 〇通常の保育時間は7：00から18：00で、18：01～19：00を延長保育としている。現在、延長保育を利用している子どもが3～4人いる。延長保育時間は、遅番の保育士が玄関に近い保育室で、保育を行っている。その時々状況を見ながら補食を提供している。0歳児は眠くなってしまったり、1～2歳児は「ママまだ?」と不安な様子が見られることもある。絵本を読んだり、好きな玩具で遊んだりしながら、子どもが落ち着けるようにしている。
- 〇保護者とは毎日「育児日記」のやり取りをして、家庭と園での子どもの状況を共有している。また、降園の際に、今日はこんなことができた、走っていて転んだけれど怪我はなかったなど、子どもの様子を口頭で伝えている。保育士は保護者と一緒に子育てをしているという意識を持ち、子どもの成長を見守っている。
- ◇独自項目への取り組み
- 〇事業所におけるサービスの質の向上のためのシステムを確認する「発展的評価項目」に取り組んでいる。「一人ひとりを見つめて～個性を大切に～」をテーマに、誕生日会の取り組みの過程をPDCA（計画、実施、反省、課題の検証）に分け、実践を振り返っている。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

第三者評価、訪問調査とありがとうございました。

この度、2度目の第三者評価を受けるにあたり、経験していない職員が多数だったこともあり、不安と心配がありました。

子どもたちとの日々の生活の中で、保育理念、指針に基づきながら、子どもたち1人ひとりに合わせた保育を全職員で一丸に取り組んでいます。職員間で試行錯誤しながら取り組んでいることで新たな発見を見つけることができる楽しみもあります。

訪問調査結果を閲覧して、細かく見ていただいたことと、日中活動に参加していただいたこと、ヒアリングを受け、課題がわかったことなどさまざまな気づきを得ることができました。

今後も、小規模事業保育所の特色を活かして。子ども1人ひとりと向き合い、見守りながら、子どもたちが安心、安全な環境の中で、のびのびと健やかに、笑顔があふれるよう、全職員で基本理念、指針を基に努力していきたいと思えます。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり